信濃教育会報

第1142号　令和８年10月15日発行

目　次

臨時総会報告……2～3
教育研究団体との懇談会……4
教育研究団体補助金……4
長野県内の公開授業……5
教育研究論文・教育実践賞募集……6
移動展報告……6
オンラインカフェ報告……7
雲上殿慰霊報告……7
信州“教育の日”ご案内……8
100年館の絵……8

芭蕉のまなざしで千曲市を詠む

第3回「探究的な学び」研究調査委員会　屋代中学校での授業研究会

９月24日（木）の第３回「探究的な学び」研究調査委員会では、千曲市立屋代中学校の３年国語「芭蕉のまなざしで千曲市を詠む」（『おくのほそ道』より）の授業を参観し、研究を深めました。授業者の山邉恵美先生は、生徒が千曲市の風景に思いを寄せ、芭蕉の俳句から学んだ「ものの見方」や「表現の技法」を用いて、その子ならではの俳句を詠んでほしいと願い、学習を進めてきました。本時では、友とアドバイスし合いながら、探究する生徒の姿がありました。


「千曲川や月に合う秋の季語には何があるかな？」


「無常観を表したいな」


活発に意見が交わされた授業研究会＜グループ協議＞


安積順子先生の「探究的な学び」の講演

授業研究会の後、講師の安積順子先生（箕輪町教育委員会）から、探究的な学びを創るために教師に求められること等について講演をしていただきました。

【参加者の感想】

生徒は、地域の自然の美しさがどうしたら伝わるか、一文字にこだわり、自分が考える芭蕉らしさと自分の俳句を比べるなど、言葉と向き合い続けていました。地域の自然の美しさへの強い思いを生徒から感じ、それが探究の原動力になっているように思いました。私も、生徒がのめり込む願いになるための工夫を常に考え続けていきたいと思いました。また、安積先生の「委ねる」という言葉も印象的でした。集団の学びの中の無音も良くない時間ではなく、問いに対して思いを巡らす大切な時間。授業の中で生徒と一緒に探究する姿勢を大切に、日々の自分の姿を見返してみたいと思いました。

11・12月の研修ガイド

11月17日（火）●信州教師塾Ｂ＜スクラム４☆リレーセミナー（長水）＞ ◎長野上水内教育会館（ハイブリッド）◇「“任せる”ことに自信が持てる教育コミュニケーション」内藤睦夫「（教と育」研究所代表）☆長野上水内教育会 026-226-2458

11月28日（土）●本質観取ワークショップ ◎オンライン ◇「体験してみよう！本質観取～学びとは何か？～」苫野一徳（熊本大学准教授）☆長野上水内教育会 026-226-2458

12月５日（土）●哲学講演会 ◎上伊那教育会館 ◇秋富克哉（京都工芸繊維大学教授）☆上伊那教育会 0265-72-3416

12月19日（土）●諏訪湖水鳥観察会 ◎岡谷市横河川河口周辺 ◇水鳥・冬鳥の観察 ☆諏訪教育会 0266-52-0213

●名称　◎会場　◇演題・講師等（講師名敬称略）　☆連絡先

第２回臨時総会報告

信濃教育会会員としての所属感や信州の教師としての矜持等を実感

令和８年度第２回臨時総会が９月３日（木）に各郡市教育会から選出された代議員45名の出席のもとオンラインで開催された。第１号議案が上程・承認され、その後６つの協議題等について意見交換された。以下、臨時総会の概略を報告する。

大日方会長あいさつ

○日本連合教育会研究大会長野大会を終えて

この大会は、信濃教育会にとって第140回の総集会でもあり、節目の大会だった。長野上水内教育会を中心に全県の皆様にご尽力をいただいた。関係の皆様に感謝を申し上げる。

大会参加者は、県外から193名、県内から1029名、総計1222名だった。多くの方を迎えて、輸送面などの心配もあったが、各係が丁寧かつ迅速な対応で円滑に運営していただいた。県外参加者からは、「終日気持ちよく参加できた」との感想もいただいた。

長野大会の開催にあたり、大会主題「悠久の山河の如く 新たな時代を力強く切り拓く 日本人の育成」に迫ることを大前提に、信濃教育会としても意味ある大会になることを願い、以下の３点を大事にした。

・大会参加を通して、会員の信濃教育会への所属感、連帯感を高める。
・若い会員も主体的にかかわれる大会にする。
・信州教育の「今」と「今後」について、発信できる大会にする。

当日のアトラクションは、60名を越える信濃教育会オーケストラと110名を越える合唱団の演奏だった。見事な演奏に会場からは割れんばかりの拍手が起こった。終盤、参加者は、「信濃讃歌」の演奏に合わせ、「信濃の国」「ふるさと」を歌った。ホールに響き渡る歌声を通して、参加者は共に、一体感を味わうことができたように思う。

分科会レポートの作成に当たっては、若い先生方が主体的にかかわり、経験豊富な先生方がサポートする形で、２年半をかけ、じっくり取り組んでいただいた。レポートは、信大教育学部の茅野先生にもアドバイザーとしてご助言をいただいて整えた。先生方が主体的にまた積極的に、レポート作成に取り組む姿が、全県で見られたことは大きな成果だった。

長野大会に向けたこれまでの様々な取組や、当日の研究大会を通して、本県の参加者の多くが、信濃教育会会員としての所属感や信州の教師としての矜持等を実感したのではないかと思う。また、随所に若い先生方の溌剌とした姿が見られたことも今後に繋がる成果だった。

「今後の信州教育についての発信」は、これからの課題である。今回の大会を通して得た「確かな手応え」を、信濃教育会の財産として今後に繋げてまいりたい。

○満蒙開拓にかかわった先人への慰霊

長年、信濃教育会では、長野県をはじめとする関係団体とともに、日中友好教育者訪中団を結成し、中国黒龍江省方正県を訪れ、異国の地で尊い命を落とされた開拓団員や青少年義勇軍への慰霊を続けてきた。併せて、現地の方々との交流を重ね、過去の歴史を見つめながら相互理解と友好の絆を育んできた。

しかし、残念なことに、昨今の日中関係の悪化により、これまでの形での、犠牲になられた方々への慰霊と現地の方々との交流は、困難になっている。そこで、今年度は、県内にある慰霊碑へ行き、慰霊することとした。訪問可能な場所を調べる中で、善光寺の雲上殿に慰霊碑として建立された「拓魂碑」があることが分かり、先週、訪れ、満州の地で亡くなられた方々への慰霊をした。慰霊には、本会を代表し、桂本総会議長をはじめ、常任委員会正副委員長、正副幹事長、並びに事務局員の９名が参加した。

現在、日中間には様々な課題や緊張感もあるが、信濃教育会では、今後、関係が改善され、再び現地を訪れ慰霊と交流ができることを願っている。

議　事

⑴　第１号議案「保有債券償還に伴う新規債券及び投資有価証券購入の承認」に関する件

協　議

⑴　令和８年度学び創造研究会の推進及び令和９年度学び創造研究会の構想
⑵　第77回日本連合教育会研究大会長野大会兼第140回信濃教育会総集会の反省
⑶　第141回信濃教育会総集会諏訪大会について
⑷　令和８年度会員アンケートの推進計画
⑸　令和８年度図書教材研究協議会アンケートについて
⑹　教育研究団体補助金の決定について

報告・連絡・その他

⑴　教育研究所研究発表会報告
⑵　教育研究所募集要綱
⑶　雑誌「信濃教育」の購読状況について
⑷　秋の講習・講座について
⑸　第23回信州“教育の日”佐久大会について
⑹　令和８年度日中友好事業について
⑺　「教員助成事業」の応募状況について
⑻　教育研究団体（同好会）展開催について

意見交換

テーマ　「信濃教育会の事業の見直しと事業改革」について、教育会の存在意義や郡市教育会と信濃教育会の連携と分担を視点に意見交換を行った。

○グループ別協議
○全体協議
・教育会の事業についての周知がまだ足りないのではないか。補助金や助成金も周知されていると申し込みが多くあり、活用されている。一方、情報の発信はされていると思うが、個々にはなかなか届かない状況もある。例えば、平日夕方のオンラインの研修・セミナーを水曜日にやっていただくと職員会議等の時間に活用できるがどうか。信濃教育会 HP のアーカイブ配信等紹介したい。
・信濃教育会の意義は、学び創造研究会もそうだが全県でできる点にある。また、一流の講師等を手配していいただけることもありがたい。郡市教育会では、地域に根差した研究・研修が大事になる。教育課程研究協議会のあり方が見直され、授業を見て学ぶ機会が減少している。信濃教育会の学び創造研究会は授業を通して学ぶ機会として大事にしたい。
・信濃教育会がこれまで大事にしてきた子ども中心、目の前の子どものための研修ということが強みなのだと思う。そのことにより会員同士がつながり組織力にもつながっている。極意伝承道場などは、全県的なつながりができてよかった。教師塾Ｂをブロックで活用した例を聞いた。信濃教育会と郡市教育会との連携もあるが、これからは、南信、中信といったブロックも意識したらどうか。

閉会のあいさつ

○本日も協議や意見交換で貴重な意見をいただいた。閉会にあたり、２点申し上げたい。
○学び創造研究会について

先生方の研修環境が変わる中で、学び創造研究会は、授業を直接参観して自らの指導を振り返ることのできる貴重な機会である。

昨年度のことだが、屋代高校附属中学校での学び創造研究会には、中信地方の高校の先生が２人参加していた。初任者研修の関係での参加と伺ったが、学び創造研究会は、校種を越えて学び合える機会である。是非、多くの方に参加していただきたい。

グループ別協議では、郡市校長会と連携して参加しやすい環境づくりをしているところがあるという話を伺った。代議員の皆さまにもご協力いただき、子どもを真ん中にした学び創造の取組が、各校、各地域で発展するよう、本事業を育てていただければありがたい。

○日本連合教育会研究大会長野大会について

参加された代議員の皆様から、大会の成果や参加して感じた手応え等について、お話いただいた。おかげさまで、大会は成功裏に終了した。これから大事にしたいのは、大会成果をどのように今後につなげるかである。

他県の方々と話す中で、信濃教育会が当たり前に行っていることが、他県から見ると当たり前ではなく職能向上に向けて貴重なことであると再認識できた。また、円滑な大会運営は、信濃教育会の組織力、会員同士のつながりがあってこそできたことだった。信濃教育会会員であることを誇りにしたい。

今回の参加者アンケートに、知事や市長の挨拶がよかった、感じるものがあったといったコメントが多く寄せられた。これまでには、あまりないことだ。首長の挨拶が心にしみたのはなぜか。お二人とも、自分の考えを、自分の言葉で、思いを込めて熱く語っていた。そういう語りが、やはり大事なのだと思う。私自身もそうしていきたい。代議員の皆様も自校の先生方に話す際には、思いを込めて熱く語ってほしい。

教育研究団体と信濃教育会との懇談会（7/ 8）

７月８日（水）に、授業公開等をしている20団体の代表者にお集まりいただき、懇談会を開催しました。

信濃教育会では、昭和31年度から教育研究団体への補助事業を行っています。団体の構成人数・信教会員数に応じた補助金額に加え、自主的に学び続ける教師の新たなチャレンジを支援するための特別支援金も取り入れています。今年度、新たに「長野県金融経済教育研究会」と「長野県聴覚障害教育研究会」から申請がありました。

懇談会では、補助金にかかわる説明と質疑の他、それぞれの団体の特色ある活動を紹介し合いました。今年度も、信濃教育会の「学び創造研究会」、各団体の県大会、さらには信州大学附属学校園の公開研究会をまとめて紹介するポスターを作成することも確認されました。各校にポスターを掲示していただくことで、研究会に出かけて授業を参観し、児童生徒の姿から学習指導や教育課程について学び合う教師が増えることを願っています。

また、来年度から信濃教育会館１階ホールで、教育研究団体展を開催いたします。平成６年度から雑誌『信濃教育』に「わが同好会の取組」を掲載しています。その掲載順に、毎年３つの教育研究団体に展示をお願いしていきます。

令和８年度　教育研究団体補助金

No.	補助金申請教育研究団体名	補助金額
1	信州社会科教育研究会	90,000円
2	長野県学校体育研究会	80,000円
3	信州理科教育研究会	90,000円
4	長野県算数数学教育研究会	90,000円
5	長野県音楽教育学会	70,000円
6	長野県技術・家庭科教育研究会	60,000円
7	長野県国語教育学会	40,000円
8	長野県学校保健会養護教諭部会	70,000円
9	長野県美術教育研究会	45,000円
10	長野県道徳教育学会	35,000円
11	長野県英語教育研究会	45,000円
12	生活に根ざす信州総合・生活科教育研究会	35,000円
13	長野県書写書道教育研究会	35,000円
14	長野県家庭科教育研究会	20,000円
15	長野県国際教育研究協議会	35,000円
16	多様性を活かす学級・学校づくり同好会	30,000円
17	長野県金融経済教育研究会	25,000円
18	長野県聴覚障害教育研究会	40,000円
19	信州大学教育学部附属幼・小・中・特支６校園学習指導研究会	160,000円
20	長野県図書館協会小中学校図書館部会	40,000円
21	長野県視覚・放送・情報教育研究会	32,000円
22	長野県統計教育研究協議会	24,000円
23	長野県特別支援教育研究連盟	20,000円
24	長野県学校保健会 小・中・特別支援学校保健主事部会	16,000円
25	長野県へき地教育振興協議会	16,000円
合　　計		1,243,000円

令和８年度

公益社団法人 信濃教育会

長野県内の公開授業

いつもの場所から飛び出そう！

子どもの姿から学習指導や教育課程について考えてみませんか。

授業づくりを様々な視点から学びたい方におすすめ

信濃教育会「学び創造研究会」

立候補した学校・個人が、共同研究者と研究を推進

ベースとなる授業観「子ども自らが、心ゆくまで探究する」授業

お申し込み◀

申込み締切り各研究の１０日前

開催日	学校（個人）	視　点
10．7（水）	岡谷北部中学校	授業づくり
10.20（火）	櫻ケ岡中学校	学校づくり
10.22（木）	八坂小中学校（三枝祐紀）	学校づくり
10.30（金）	埴生中学校（遠山恒輝）	国　語
11．6（金）	伊那中学校	探究的な学び
11．6（金）	屋代高校附属中学校（山田裕也）	英　語
11.11（水）	旭ヶ丘中学校（田口智一）	理　科
11.11（水）	清水中学校	授業づくり
11.17（火）	白馬南小学校	音　楽
11.17（火）	緑ケ丘小学校	図　工
11.18（水）	下諏訪南小学校	探究的な学び
11.18（水）	松川北小学校	個別最適・協働
11.18（水）	須坂小学校・須坂支援学校	学校づくり
11.20（金）	信濃小中学校（研究部）	授業づくり
11.26（木）	白馬北小学校（塩原一矢）	体　育
11.27（金）	浅間中学校	総合的な学習の時間
11.27（金）	塩田西小学校（花岡眞子）	学級づくり
11.27（金）	伊那西小学校（寺川耕平）	体　育

教科等の学習指導を学びたい方におすすめ

信濃教育会が助成している教育研究団体の県大会等

教育研究団体名	開催日	会　場
長野県国語教育学会	11．6（金）	〈上田市〉中塩田小学校、塩田中学校
長野県書写書道教育研究会	11．19（木）	〈長野市〉共和小学校
信州社会科教育研究会	11．13（金）	〈須坂市〉日滝小学校　〈長野市〉裾花中学校
長野県算数数学教育研究会	10．26（月）	〈松本市〉芳川小学校、寿小学校、筑摩野中学校、菅野中学校
信州理科教育研究会	11．6（金）	〈飯山市〉城北小学校　〈中野市〉高社中学校
長野県音楽教育学会	11．20（金）	〈上田市〉城下小学校、丸子中央小学校、第六中学校
長野県美術教育研究会	11．20（金）	〈栄　村〉さかえ小中学校　〈中野市〉南宮中学校 〈飯山市〉城南中学校
長野県学校体育研究会	10．30（金）	〈飯田市〉旭ヶ丘中学校、緑ヶ丘中学校、伊賀良小学校、松尾小学校
長野県技術・家庭科教育研究会	11．27（金）	〈安曇野市〉穂高西中学校（技術分野）明科中学校（家庭分野）
長野県家庭科教育研究会	8．6（木）	〈長野県〉岡谷南高等学校
長野県英語教育研究会	11．13（金）	〈長野市〉城山小学校、櫻ケ岡中学校 市立長野中学校、信大附属長野中学校
長野県道徳教育学会	11．13（金）	〈千曲市〉戸倉小学校
生活に根ざす信州総合・生活科教育研究会	8．28（金） 10月 11月上旬	「ぶらり参観」　〈上田市〉丸子北小学校 〈箕輪町〉箕輪西小学校 〈長野市〉芹田小学校
多様性を活かす学級・学校づくり同好会	9．7（月） 12．2（水）	〈白馬村〉白馬南小学校 〈松本市〉芝沢小学校
長野県視覚・放送・情報教育研究会	11．5（木）	〈池田町〉会染小学校、高瀬中学校 〈松川村〉松川小学校、松川中学校
長野県統計教育研究協議会	11．20（金）	〈大町市〉美麻小中学校

各団体や学校からの案内をご覧いただいて、お申し込みください。

先進的な学習指導、教育課程を学びたい方におすすめ

信州大学教育学部附属長野三校の公開研究会 ～学びに向かう力を発揮し、豊かな未来を切り拓く「自立した学習者」の育成～	10．23（金） …… 10．24（土）	【小学校】中核活動◆国語科、総合的な学習の時間を中心とした共同・自由参観 【中学校】教科学習◆社会科、理科、保健体育科、技術・家庭科（技術分野）、英語科、道徳科 【特別支援学校】各部生活（作業）単元学習、PLUSの時間の学習（個別学習） 三校合同でのインクルーシブな学校運営公開

令和８年度　公益社団法人 信濃教育会

第30回「教育研究論文・教育実践賞」募集のお知らせ

詳細はＨＰをご覧ください！

作品内容	１　目標達成や課題解決のための自主的、継続的な研究や実践をまとめたもの ２　指導や支援による子どもの変容や成長をまとめたもの ３　会員にとって学びがあり研究や実践の参考になるもの
部　　門	個人の部　／　グループの部（２名以上）
応募資格	信濃教育会会員であること
表　　彰	特　選：賞金10万円・楯・賞状　準特選：賞金８万円・楯・賞状 入　選：賞金３万円・賞状　佳　作：賞金１万円 奨励賞：図書カード（２千円分）
提出先／締切り	小・中・義務教育・特別支援学校　→　各教育会事務局　令和９年１月８日（金）必着 高校・大学　→　信濃教育会　令和９年１月15日（金）必着

第23回　信州“教育の日”　佐久大会　開催のご案内

「共に学び共に育つ環境づくりをめざして」　主催　第２３回 信州“教育の日”実行委員会

第２３回信州“教育の日”、今年度は佐久市で開催されます。４つの分科会を設け大学生や高校生を含め様々な立場で子どもたちの教育にかかわっていただいている７つの団体の皆様及び佐久地域の児童生徒の皆さんにご発表いただき、参加者とともにこれからの信州教育について考え合います。詳細は下記二次元コードより信濃教育会 HP 内のちらし等をご覧ください。参加は無料です。未来づくりや地域づくり、生涯学習や探究的な学びに関心のある先生方、是非ご参加ください。

参加希望の方は信濃教育会 HP 内の Google フォームよりお申込みください。（10月末まで）

◇ 開催日　　令和８年１１月２１日（土）　12：40～15：35
◇ 共　催　　佐久市教育委員会
◇ 開催場所　佐久市コスモホール
◇ 後　援　　長野県議会、長野県教育委員会ほか県内１３３団体（予定）
◇プログラムの概要

●開会セレモニー　●分科会Ａ　●分科会Ｂ　●閉会セレモニー

＜分科会内容＞



■ 子どもの夢広がるお仕事ゼミ　地域を知る人と学校とのパイプ役を担うこと
■ 野沢北高校　高校生による地域活性化プロジェクト
■ つながりひらく越境する学び　～CS、教育会、PTA の協働を通じて～
■ 岩村田商店街「おいでなん処」まちづくりから取り組む子育て支援
■ 対話で深まる：小中学生がつくる「探究アウトプット」ステージ
■ 自分たちの町を自分達の手でつくる　アーティストとつくる舞台芸術公演“新しい町のお祭り”
■ 佐久平地域まるごとキャンパス　佐久地域の学生・ワカモノと大人の協働
■ 佐久大学　地域の暮らしに学ぶ：人々の生活の場から考える看護と福祉

オンラインカフェ“できたらいいな！”8/31開催しました！



「信州の教師がつながり、学び合える楽しい企画をみんなで考え、信濃教育会に提言しよう！」をテーマに、オンラインカフェが開催されました。41名の参加者が６つのグループに分かれて、「こんなことできたらいいな、やってみたい」を語り合いました。

大日方会長のあいさつの後、MC の田畑幹事（木島小）と長尾幹事（三陽中）が「たとえ実現不可能かもしれないと思っても、“こんなことができたらいいな！”を語り合うのが今日の会です」「私は教員向けの資産運用について学びたい」「私は県内の先生方と美術館・アートめぐりをして語り合いたい」などのトークがありました。ブレイクアウトルームでも、活発にアイディアが出されました。その一部を紹介します。

◇ ママ、パパ教師が、教職と育児の両立、ワークエンゲージメントについてリアルに語り合う
◇ 普通は簡単に入れないようなところで、大自然を満喫できる臨地講習
◇ 高級外車ディーラー、高級ジュエリー店、高級ホテルなど、普段は入りにくい事業所での研修
◇ プロフェッショナル、匠との出会いから学ぶ研修
◇ ご当地グルメや教育実践を持ち寄って、ざっくばらんに語り合う研修
◇ 異業種の方と焚火トーク　◇子連れで参加できる研修　◇食、グルメ、美味しいものめぐり研修

日中友好事業 善光寺雲上殿満州開拓団「拓魂碑」への慰霊 8月28日



日中関係の影響により中国黒龍江省への訪中団派遣を見送ることとなった日中友好事業。今年度はその代替として善光寺雲上殿の「拓魂碑」を訪れ、満蒙開拓にかかわり尊い命を落とされた方々への慰霊を行いました。慰霊には信濃教育会を代表し、総会議長、常任委員会正副委員長、正副幹事長の皆様にもご参加いただきました。

拓魂碑は昭和49年「長野県開拓自興会」が中心となり、終戦時に中国東北部（満州）で命を落とした方々の慰霊と和平交流の誓いを後世に伝えるために建立されたものです。碑誌には、終戦時の逃避行やその後の収容所などでの過酷な苦役によって多くの尊い命が失われたことに対しての慰霊と世界平和への願いとともに、長野県からの開拓団名および青少年義勇軍名が全て刻まれています。

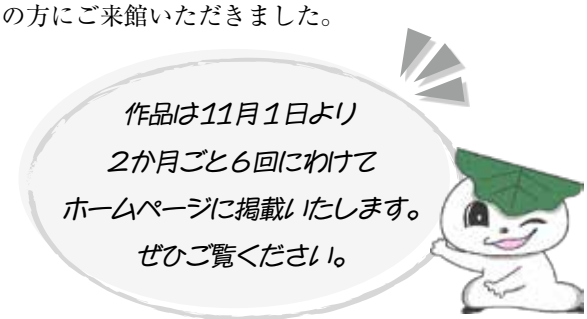
建立された当時は約650名が参列して法要が行われたと記録に残っています。関係者の高齢化や自興会の解散などに伴い、会としての法要は行われなくなって久しいですが、碑の前には今も誰かしらが訪れてお参りした形跡が残っていました。今回の慰霊により、改めて拓魂碑に込められた悲痛な歴史と犠牲の事実を学ぶとともに、平和への誓いを新たにする機会となりました。

令和７年度「今を生きる子どもの絵展」移動展を開催しました

10月２日㈮～８日㈭、安曇野市の信濃教育会生涯学習センターにおいて令和７年度「今を生きる子どもの絵展」移動展を開催しました。

一週間という短い期間でしたが、中南信地区を中心に、多くの方にご来館いただきました。





信濃教育 予告



100年館の絵

令和７年度 永年保存作品
今を生きる子どもの絵

「映し出した自分」
久納　小幸（両小野中三年）



指導者
矢崎　七愛（両小野中学校）

中学三年生の一学期。多くの学校で自画像に取り組まれるのではないでしょうか。

本校も、卒業後の進路について自分と向き合い考え始める時期と、美術の授業で自画像を制作する時期が重なっています。

まずは、作品を十秒程ご覧ください。絵の中に描かれた『彼女』は、何を見て、何を考えているのでしょうか。

久納さんは、三年生になってから絵の描写力を高めると決め、美術部で静物デッサンや着彩に挑戦し始めました。繊細な眼差しでモチーフの観察をしては、その物らしさや細部にこだわって表現し、枚数を重ねるごとに描写力を磨いていきました。

この作品では、その視線を自身に向け、中学三年生の自分が今何を思い考えているのか。言語化できることも、できないことも、誠実に描き出そうとしたのではないかと思います。

信濃教育博物館所蔵

「信濃教育会報」カラー版は信濃教育会ホームページの「会員のページ」でご覧いただけます。

公益社団法人
信濃教育会
〒380-0846 長野市旭町 1098　TEL 026(232)2470
URL https://shinkyo.or.jp　✉shinkyo@shinkyo.or.jp
編集兼発行人／大日方貞一